

弘道館に梅花を賞す（徳川景山）

弘道館中 千樹の梅

清香 馥郁 十分に開く

好文 豈威武無しと 謂わんや

雪裡 春を占む 天下の魁

弘道館中千樹梅 清香馥郁十分開
好文豈謂無威武 雪裡占春天下魁

解説 水戸に弘道館を建て、館中に多くの梅を植えた。その梅に託して文武を理想とし、人材を育成しようとする意を述べたもの。

語釈 ※弘道館：水戸の藩学。文武二館にわかれ、文館、武館などの教場を置いた。※馥郁：香氣盛んなさま。※好文：梅の異名を好文木という。※魁：他に先んじること。

通釈 弘道館の中にはおよそ千株もの梅の木がある。その梅はいま満開で、清らかな香りがぶんぶんとあたりに漂っている。昔、留の武帝が学問を好むと梅の花が開き、学問をやめると咲かなくなった故事から、梅を好文木と称するようになったというが、その一面、武の威力が梅にないといえようか。あの厳しい寒中に雪を冒して独り咲き出で、天下の春の魁をなすのは、まさにこの花である。